



縄文後晩期の北部九州における低湿地遺跡と生業

水ノ江 和同（福岡県国立博物館対策室）

北部九州は、稲作農耕文化がいち早く取り入れられ根付いた地域として広く知られている。したがって、それに先行する縄文後晩期についても、西日本の中では集落遺跡の調査事例が傑出して多いだけに、低湿地遺跡やそこから復元する生業の実態もかなり明らかな地域として思われがちである。しかし実際には、低湿地遺跡はドングリ貯蔵穴にほぼ限られ、生業の実態もよくわかっていない。

こうした中、山崎純男は、後期初頭に急増するドングリ貯蔵穴は後期後半以降低調になる、後期後半から土掘り具としての扁平打製石斧が急増する、伐採具である磨製石斧は後期後半から急増する、稲作に関連する打製石鎌・打製石包丁・軋圧痕土器は後期後半から出現する、畑小屋（出作小屋）とされる小規模集落遺跡が後期後半から丘陵上に構築される、といった主に5つの理由により、後期後半を境として、植物質食料の対象が堅果類から焼き畑による根茎類等へと変わっていき、その主体がイネである可能性を提示した。このことは、北部九州の弥生時代を特徴付ける水田稲作の受容と展開が、従来より言われている突発的かつ急激なものではなく、その前段階として丘陵上に展開した焼き畑の存在を通して、比較的スムーズかつ発展段階的にそれが進行したことを想定した見解として大いに注目されよう。

なお、この後晩期における北部九州の集落構造についてふれておきたい。後期集落は低位河岸段丘上に立地し、当初1～2軒の円形住居が次第に増えて3～4軒となった段階で大きく2群に分かれ、その後徐々に衰退していくパターンが一般的である。これに対し晩期の集落は丘陵の縁辺部に立地し、一辺3～4mの方形住居が相当な数で切り合うようになる。したがって、後期集落と晩期集落が同一遺跡で検出されることはほとんどなく、むしろ晩期集落については弥生時代初頭期の集落と連続する傾向にある。このような遺跡立地の変化は、生業内容の変化に直結している可能性が高いだけに、山崎の指摘が大いに参考になるが、山崎の指摘する生業の画期が後期後半であるのに対し、この集落の立地や構造の画期についてはまさに後期と晩期の境界付近に位置づけられるために、この差をどのように見るかが今後の課題となろう。

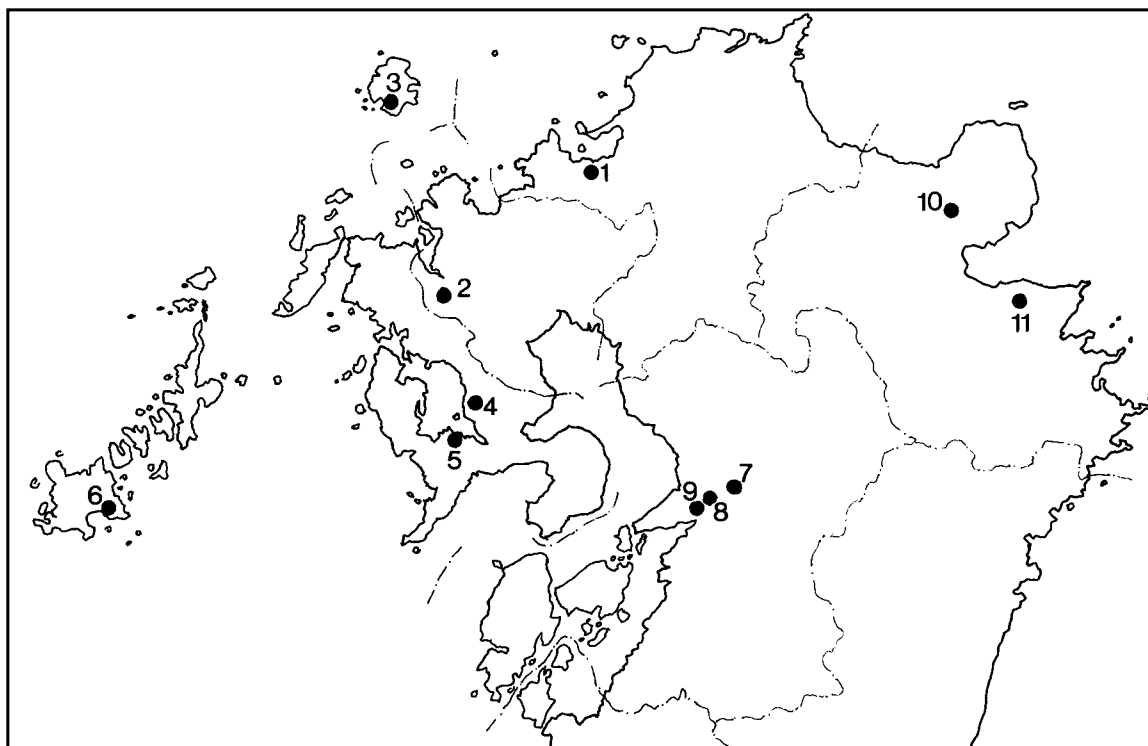
さて、実際の低湿地遺跡の遺構を見ると、冒頭でも述べたようにほぼドングリピットと呼ばれる低湿地型貯蔵穴に限られる。九州では、縄文前期に出現し、後期初頭に至って量的なピークを迎え、その後減少しながらも弥生時代まで連続と存続する。ここで問題になるのがその内容物で、ドングリといってもイチイガシがその95%以上を占める。イチイガシはアク抜きを必要としないドングリの一つであるだけに、九州の縄文時代遺跡からはいまだ水晒し遺構は検出されていない。しかし、アク抜きを必要とするアカガシが内容物の主体となる弥生時代遺跡からは、九州でも水晒し遺構が検出されており、ドングリの種類による調理方法の違いを見ることができる。

この低湿地型貯蔵穴と集落との関係については、両者がいまだ同一遺跡で確認された例がないだけに、生業についてもこれ以上多くを語れないが、やはり今後は狩猟や漁撈を含めた総合的な生業復元を追究する必要がある。

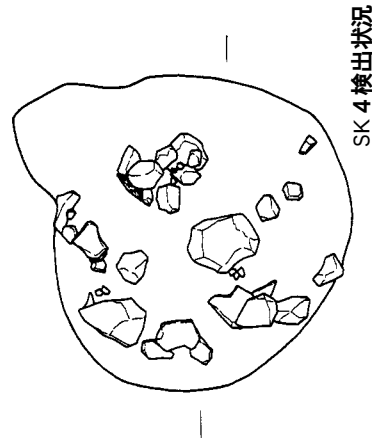
水ノ江和同1999「西日本の縄文時代貯蔵穴 - 低湿地型貯蔵穴を中心に」『考古学に学ぶ - 遺構と遺物』同志社大学考古学シリーズ
水ノ江和同2002「九州の縄文集落 - 縄文後晩期を中心に」『四国とその周辺の考古学』犬飼徹夫先生古稀記念論集
山崎純男 2003「西日本の縄文後晩期の農耕再論」『大阪市学芸員等共同研究 - 朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査』

番号	遺跡名	所在地	立地・標高	時期	基数	内容物	備考
1	野多目枯渡	福岡県福岡市	河岸段丘・14m	後期初頭	60	イイガシ	柱（杭）
				晩期中葉	4	イイガシ	
2	坂の下	佐賀県西有田町	河岸段丘上・80m	後期初頭	19	イイガシ・アカガシ・ チャンチンモトギ	
3	名切	長崎県郷ノ浦町	旧海浜部・1m	中期末～ 後期初頭	22	イイガシ	現在は満潮時海水面下
				晩期中葉	8	イイガシ	
4	黒丸	長崎県大村市	後背湿地・1.5m	晩期前葉～ 中葉	62	イイガシ	刈は1基だけ単独で
5	伊木力	長崎県多良見町	旧海浜部・0m	前期前葉	22	イイガシ	
				後期初頭	3	イイガシ・チャンチンモトギ	
6	中島	長崎県福江市	旧海浜部・2m	後期中葉～ 後葉	12	イイガシ・アラカン	
7	黒橋	熊本県城南町	旧河川後背湿地？・3.5m	中期末	6	イイガシ・チャンチンモトギ	貝塚の下
8	曾畑	熊本県宇土市	旧ラグーン・2.5m	前期中葉	58	イイガシ・クヌギ	クヌギは1基だけ単独で
				後・晩期	4	イイガシ	貝塚の横
9	西岡台	熊本県宇土市	丘陵先端部・2m	前・中期	5	イイガシ・アラカン・シラカン	貝塚の下
10	龍頭	大分県山香町	河岸段丘上・99m	後期前葉	55	イイガシ	
11	横尾	大分県大分市	後背湿地・4m	後期初頭～ 前葉	6	イイガシ	

表 1 北部九州における縄文時代低湿地型貯蔵穴一覧



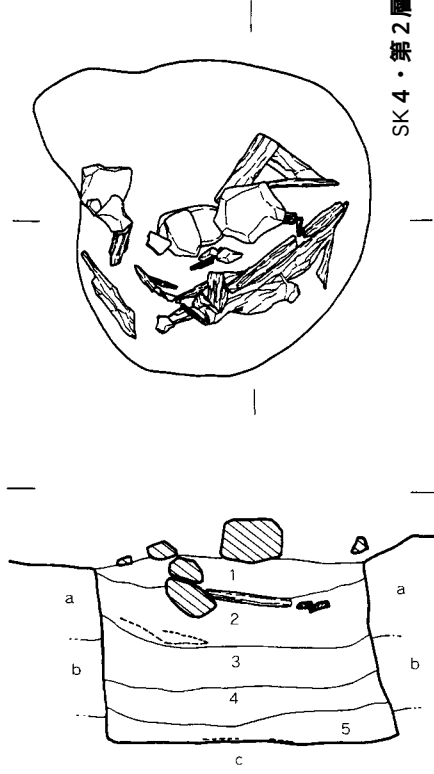
第 1 図 北部九州の主要低湿地型貯蔵穴分布図



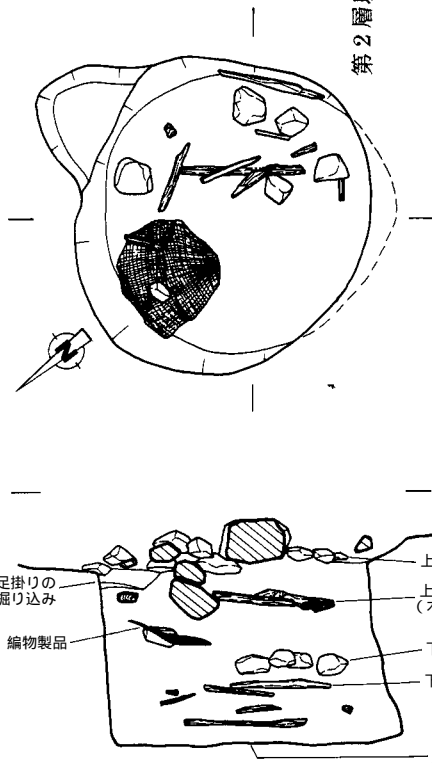
SK 4 検出状況

- 1 明青灰色砂質土
- 2 暗褐色粘質土
- 3 暗緑色砂質土
- 4 褐色粘質土
- 5 黄褐色粘質土

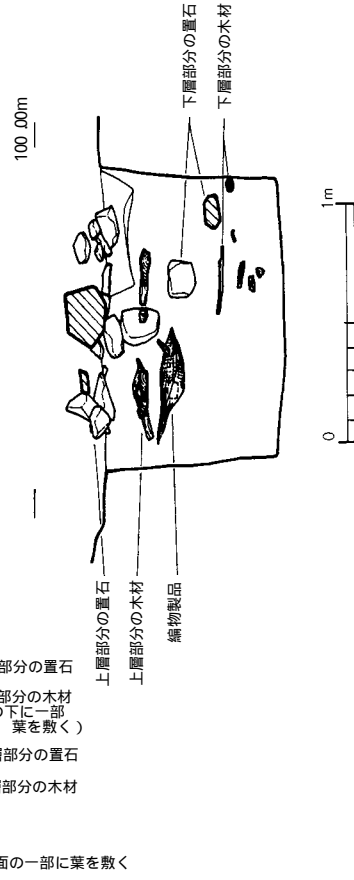
- a 暗緑灰色砂質シルト
- b 茶褐色粘質土
- c 緑灰色砂質土



SK 4・第2層上面



第2層以下



第2図 大分県山香町龍頭遺跡 SK 4 号貯蔵穴実測図
(1 / 30 大分県教委1999『龍頭遺跡』より転載)